

くれあ通信 7月号

先月、仕事を兼ねて10日弱ほどアメリカへ行ってきました。実に9年ぶりの渡米でした。以前シリコンバレーに勤めていたので、その変容ぶりなども見て参りました。

最初に訪れたのはロスアンゼルスです。ロスは何度も何度も個人的に足を運んでいた土地なので、ちょっぴり郷愁の想いが致しました。今回足を延ばせたのはサンタモニカとハリウッドだったのですが、印象としてはだいぶ安全になった印象を受けました。みんなのびのびと生活を謳歌しています。

サンタモニカでは、6月でも十分泳げるほど暑いため海水浴を楽しんでいる人もいました。ビーチバレーやサイクリングを楽しむ人もいました。私が行った日は平日でしたが、本当に大勢の人でにぎわっていました。カルフォルニアは日差しが気持ちいいことで有名で、雨もあまり降りません。多くの人がサングラスをし、男の人は上半身裸で、本当に楽しそうに優雅な時間をみんなまで過ごしていました。

ハリウッドは、かれこれ15年前から行ってましたが、街並みは変わらず、やっぱり映画の都でした。近代化されていて少し寂しいところも。続きはまた来月。



朝霞紹介



いよいよ夏本番というほどの暑さが続き節電への意欲もそぎ落とされそうな毎日が続いておりますが、みなさんはいかがお過ごしですか？

さて、今年もやります彩夏祭！人と人の絆・思いやり、自粛は復興の為ならず。しかし節電を考え前夜祭や駅前での鳴子舞台は中止です。今年は多くの鳴子演舞隊の人々は踊る場所を求めこの朝霞に多くの団体が集まるのではと期待しております。かくゆう私も4歳の息子と踊る予定です。祭りは見るものでなく参加

するものと言いますが、まさにその通りだと実感しております。地元には祭りがあり、地域で参加できることはなによりの喜びです。また6日（土）には花火も開催され、毎年沢山の人が出がります。

今年も是非みなさん朝霞にお越しください♪



映画紹介

『麦秋』

今回は小津安二郎監督の『麦秋』です。原節子扮する「紀子」三部作の第二作で、『晩春』の次にあたる作品です。本作も結婚がテーマとなっており、しばらく結婚から遠い距離に身を置いていた紀子がいかに結婚を決意するか、そして紀子を中心に据えていた家族がいかに変容していくかを昭和初期の時代背景にのせて見事に描いています。物語は小津らしく独特にそして淡々と進んでいきます。この時間の流れが本当に心地よく、それが実世界の

時間の流れの組み方にリンクし、観客を物語にシンクロさせます。家族の在り方についても、ごく自然な中において世代交代がゆっくりに行われる様は実にその本質を見事についていると思います。父と娘の交流・葛藤は、時代とは無縁で普遍的なもののなのです。

麦秋
昭和26年
1951

Director: 小津安二郎
Writer: 野田高悟
小津安二郎
Cast: 原節子・笠智衆



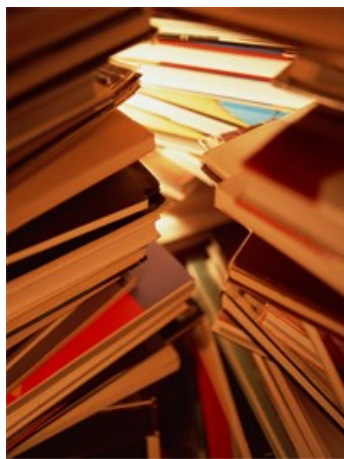
書籍紹介

『日本人の誇り』 藤原正彦

なぜ日本人は誇りと自信を失い、政治とモラルは崩壊してしまったのか。近現代史を振り返り、日本を取り戻すにはどうすれば良いのかを探る、筆者渾身の書き下ろしです。

著者については、「若き数学者のアメリカ」に始まる、数学者としての生活を綴った面白いエッセイを読んでいたのですが、「国家の品格」というやや大仰なタイトルの本をいつの間にか執筆しており、同一人物かどうか疑ってしまつたことを思い出します。

しかし本作でも、熱く、人生に対して実直な(ように思える)姿勢は昔と変わらず、心に訴えかけてくるような文章も健在でした。内容には感心しつつも、一方的に思える観点に疑問を感じる部分もありました。しかし最後には、日本人が誇りを取り戻すために最も大事なことは、それを批判することではなく、各人がそれぞれに誇りについて意見を持ち、それを元に日々精進を重ねることにあるのだと気づかされます。この本には、確固たる自分を持った人の、見習うべき一つの意見表明がありました。



Crea

コンピューターソフトウェアの企画、開発なら株式会社クレアへ